

岩手県岩手町における生活交通の評価と改善策に関する研究

岩手大学 学生員 ○吉田 史宜 岩手大学 正会員 南 正昭
岩手大学 学生員 伊藤 遼太郎 岩手大学 学生員 古巢 大樹

1. はじめに

我が国の地方部では過疎化と高齢化が同時に進んでいる。将来にわたり、住民が社会へ参加し充実した生活を送るためには、個々人の交通手段の確保がなされなければならない。そこで日常の交通を自動車に依存せざるを得ない現状がある地方においては、自力での移動手段に乏しい高齢者等を含む、非免許保有者のために、必要最低限の公共交通が必要となる。一方で、財政の厳しい地方の市町村においては、採算がとれず、利用者の少ない公共交通の維持が難しいものとなっている。

本研究では、岩手県岩手町におけるバス交通の現状について整理するとともに、生活交通を確保するための改善策について考察した。現状のバス交通の利用状況について調査し、路線バスの維持、患者輸送バスやスクールバスの有効利用、デマンドバスの導入等の観点から、持続可能な生活交通のあり方について考察を行った。

2. 研究対象の概要

(1) 岩手町の公共交通について

岩手町は岩手県北西部に位置する。総面積は360.5平方キロメートル、人口は平成20年現在、16089人の地域である。住民の自家用車への依存度が高く、岩手町の運転免許人口は9597人であり、16歳以上の男性で84.4%、女性では53.2%が免許取得者である。現在岩手町の公共交通を担っているのは、鉄道とバスである。

盛岡一目時(青森)間を結ぶIGR岩手銀河鉄道は、岩手町の中心部である岩手川口駅といわて沼宮内駅を停車駅としている。IGRは盛岡地区等への通勤者、通学者の足となっている。

バスは現在、路線バス、患者輸送バス、スクールバスが運行されている。患者輸送バスは週1,2回の決められた日時に運行され、高齢者を対象に無料で

町中心部の病院へ送迎している。また、スクールバスは学校の遠方から通う小・中学生の送迎を無料で行っている。

(2) 岩手町の路線バスについて

岩手町を運行する路線バスの年間の輸送人員は、広域路線で58,851人、町内路線で52,357人(いずれも平成20年度実績)であり、近年は横ばいで推移している。

岩手町内のバス路線は平成15年度まで民間のバス会社が運行していたが、路線の採算性が問題となり、盛岡一久慈間を結ぶ路線を残して一旦廃止となった。岩手町はその対策をとり、町が運行主体として廃止路線を引き継ぎ、別のバス会社に運行業務を委託することとした。バスの運行は、運行経費と運賃収入の差額を補助金として、岩手町がバス会社に対して支出する形態で行われている。

この補助金のうち、複数の市町村をまたがる広域路線に対しては、岩手県から「地域バス交通等支援事業費補助金」を毎年約600万円受けていた。しかし平成18年度から20年度にかけて段階的に廃止された。また、町単独補助の路線にも毎年約700万円の支出をしている。そのためにバス交通の財源確保が問題となっている中で、岩手町は今後のバス交通政策のあり方を検討している。

3. 研究方法

2010年1月、岩手町に居住する5455の全世帯を対象として、郵送配布・回収によるアンケート調査を実施した。調査対象を全世帯とした理由は、岩手町のバス利用者の絶対数が少ない中で、より多くのバス利用者から回答を得るためである。

質問項目は4つあり、質問1で世帯の属する地区名、質問2で世帯のおおよその住所、質問3で世帯構成と各人の性別、年齢、職業、免許の有無(普通自動車、二輪・原付)、自家用車の有無(自分専用、

キーワード：生活交通、バス許容時間

連絡先：盛岡市上田4-3-5 TEL, 019-621-6454 FAX, 019-621-6460

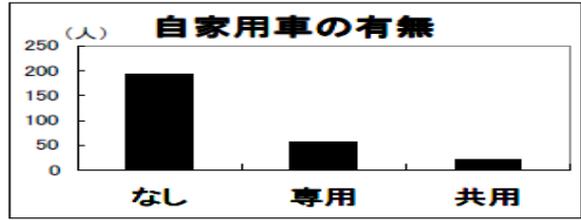
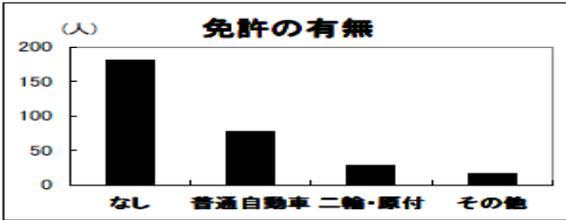
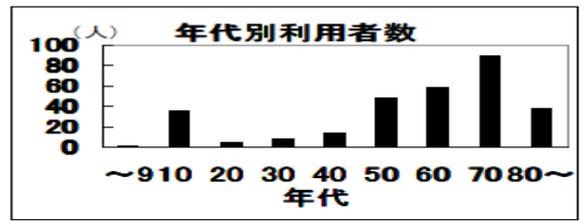
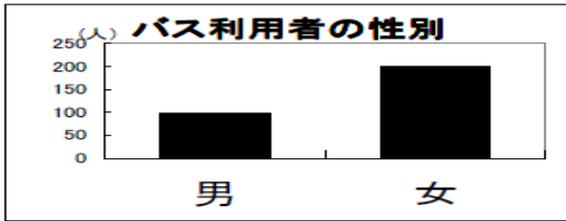


図-1 バス利用者の個人属性

共用) について、質問4で一人ひとりの現状のバス利用について、バス利用の目的、曜日、利用バス(路線バス、患者輸送バス、スクールバス)、目的地、乗車時刻【行き、帰り】、乗車および降車バス停、バス運賃、自宅から乗車バス停までの所要時間、降車バス停から目的地までの所要時間、バスの乗車時間、バス許容時間帯【行き、帰り】を尋ねた。なお、バス許容時間帯は、バスの時刻表にとらわれず、バスに乗る時刻として回答者が許容できる時間帯と定義した。

4. 調査・分析結果

1月29日現在、409通の返信があった。本稿では、現在回収されたこれらの調査票について集計結果を記述する。ここでは、現在バスを利用していると回答した304名について分析する。

図-1にバス利用者の個人属性をまとめた。バス利用者の男女比はおよそ1:2となっている。その要因としては、女性の免許取得率が男性より30ポイント近く低いことが挙げられる。また、年代別で見ると、10代と50代以上の利用が多く、70代が最大となっている。また、20、30、40代の利用者は少ない。さらに、運転免許を持たない人、自家用車を持たない人は、バス利用者の約60%を占める。

図-2は一日のバス需要推移である。これは各利用者のバス許容時間を重ね合わせ、5分刻みの時刻とバス利用者数の関係を示したものである。

この図により、朝の8時台から9時台の時間帯にバス需要が多く集中していることが示される。また昼間には、多少の増減があるものの、各時間帯で一

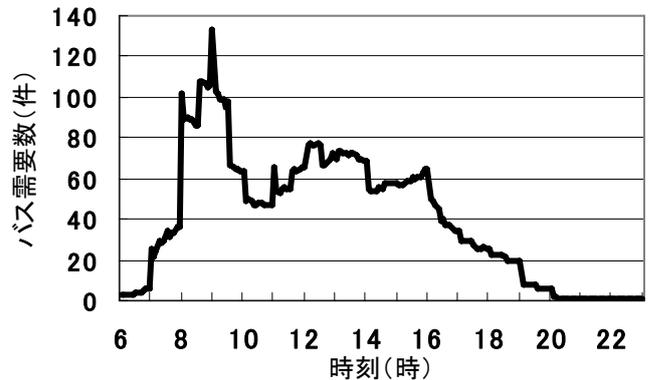


図-2 一日のバス需要推移

表-1 目的別平均バス許容時間

	目的			
	通勤・通学		通院	
行き	46.0	分	77.4	分
帰り	75.6	分	90.7	分

定量のバス需要が存在する。さらに、16時を過ぎるとバス需要は緩やかに収束していくことが読み取れる。

表-1は目的別バス許容時間を整理したものである。バス許容時間のもつ時間幅は、交通目的による差異があることが明らかになった。目的別に許容時間幅の平均は通院が通勤・通学を、行きと帰りそれぞれで上回っている。

5. おわりに

今後、調査票より得られたデータの分析を進め、GISを利用して岩手町のバス交通需要マップを作成したい。また、住民の高齢化に伴う新たな公共交通需要を調査し、研究を進めていきたいと考える。